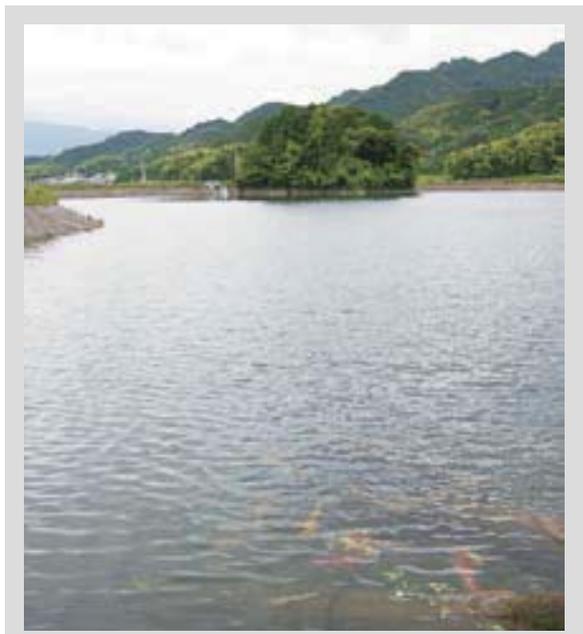


# ふるさと探訪

第63回 新池（吉岡地区・上市）



サッカー・ワールドカップ南アフリカ大会における、西条市出身の長友佑都選手の活躍は、私たちを大いに元気づけてくれたところですが、1972年のミュンヘンオリンピックでも当市（当時は周桑



▲静かな水面にはコイの泳ぐ姿も見られます

郡東予町）出身のゴールドメダリストが誕生しています。田口信教選手（現・鹿屋体育大学教授）が男子100メートル平泳ぎを世界新記録で制し、200メートルでも銅メダル獲得を果たしたのです。その田口選手が、中学生時代に水泳の練習を行ったのが新池です。江戸時代の古文書に新池の表記は認められますが、その築造時期は明らかではなく、近年の拡張工事に伴う周辺の発掘調査では、弥生時代後期の土器等が出土しています。池の周囲には、公園などの散策に最適な環境が整備されており、また、市民グループ

によって建てられた記念碑は、田口選手の偉業達成の陰にあった感動的な話を今に伝えています。



田口選手の功績をたたえた記念碑（左）と公園

